

『ムジカノーヴァ』2005年7月号

ベーゼンドルファー ジョイント・リサイタル Vol.20

日本ベーゼンドルファー協賛のジョイント・リサイタルを聞く。まず、東京藝大大学院を修了し、日本音楽コンクール第2位入賞を果たした佐野隆哉がショパンの《前奏曲》作品45（他）を聞かせてくれた。

・・・（中略）・・・

続いて東京藝術大学院を修了後ハンガリーへ留学し、ウィーン国際ピアニストコンクールにて第2位入賞を果たした安田里沙がバルトークの《15のハンガリー農民の歌》《ハンガリー農民歌による即興曲》、リストの《ハンガリー狂詩曲第19番》《リゴレット・パラフレーズ》を聞かせてくれた。安田は楽曲を俯瞰し、大きなイメージの世界を構築する能力を持ち合わせている。15曲の連作である《ハンガリー農民の歌》が、ひとつの物語のように提示され、ついでその世界に引き込まれた。《即興曲》もスリリングで多彩な世界が具現されていた。不協和音も安田にかかると不思議と新鮮な響きと感じられる。《リゴレット～》もオペラのストーリーがそこに展開されているようなリアリティを感じた。われわれを魅了してくれるピアニストがまた一人現れた。これからが楽しみである。

（4月21日、浜離宮朝日ホール）

伴 玲児